

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 Date of Application: 2002年10月30日

出願番号 Application Number: 特願2002-316727

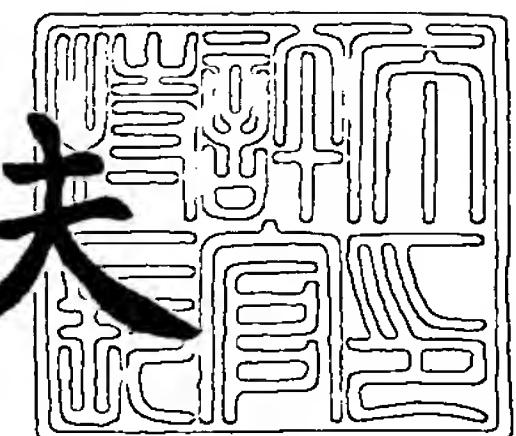
[ST. 10/C]: [JP2002-316727]

出願人 Applicant(s): アルゼ株式会社

2003年9月12日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P02-0882

【提出日】 平成14年10月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A63F 13/08

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区有明 3-1-25 有明フロンティアビル
A棟

【氏名】 長野 博之

【特許出願人】

【識別番号】 598098526

【氏名又は名称】 アルゼ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100106002

【弁理士】

【氏名又は名称】 正林 真之

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 058975

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 図面 1

【包括委任状番号】 0018505

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 遊技機

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 筐体と、

前記筐体に設けられた前面開口部と、

前記前面開口部を閉塞するように設けられた透明状板と、

遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数の計数表示機と、を備える遊技機であって、

前記遊技機内部には前記計数表示機を収めるための筒状容器が透明状板と対向するように配置され、

前記複数の計数表示機は、その表示部を透明状板と対向させて前記筒状容器に収められた状態で前記透明状板の背面方向から一枚の裏蓋によって押圧支持されることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】 前記裏蓋は、前記複数の計数表示機に対向する面にスポンジ状の緩衝部を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の遊技機。

【請求項 3】 前記複数の計数表示機は列状に並んだ状態で前記筒状容器に収められていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、遊技機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ゲームセンター や カジノ と 呼ばれる 遊技場 に あつては、 様々な 遊技機 が 設置 さ れ て おり、 多く の 遊技者 が 遊技 を 楽しんで いる。 この 遊技機 と しては、 例え ば スロットマシン や ポーカー・ゲーム機 など が 挙げ られる (例え ば、 特許文献 1 参照) 。

【0003】

これらの 遊技機 においては、 遊技者 が コイン など の 遊技媒体 を 投入 して 遊技 を

行い、遊技結果によっては所定の倍率を乗じた枚数の遊技媒体の払出しがなされるといったものである。

【0004】

そのため、遊技後と遊技前の遊技機内部に保留されている遊技媒体の枚数の差からは、実際に遊技が行われた回数を知ることができないので、遊技場の管理者は、当該遊技機において遊技の行われた回数や、遊技機を出入りした遊技媒体の枚数などを把握することができない。

【0005】

そのため、このような遊技機においては、遊技機を構成する筐体に、上述の如き各種数値を表示するためのカウンタが設けられている。これにより、遊技場管理者は各遊技機に設けられた当該カウンタに表示された数値を読み取ることで、それぞれの回数などのデータを得ることができるのである。

【0006】

【特許文献1】

特開2000-342744号公報

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、これらのカウンタは、遊技場管理者が視認しやすい位置に複数個を設ける必要があるが、その設置個数や各カウンタに必要な表示桁数などは遊技機の種類によって異なるものであり、筐体を共通使用する遊技機同士であっても当該カウンタ部分についてはその都度設計の変更をする必要があった。

【0008】

また、それぞれのカウンタは、ビスなどを使用して個別に筐体に固定されているため、ある遊技機の筐体を再利用することで新たな遊技機を作る際には、カウンタの付け替えが必要となるが、非常に手間のかかるものであった。

【0009】

さらに、当該カウンタ部分付近の構造も、遊技機ごとに異なるので、新たなパーツを用意する必要があるので、その分コストがかかっていた。

【0010】

本発明は、以上の問題点に鑑みてなされたものであり、その目的は、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える遊技機において、当該カウンタが簡単な構造で取り付けられる遊技機を提供することにある。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える遊技機において、当該カウンタを個別に固定することなく、汎用の部材で、簡単に固定することが可能な遊技機を提供する。

【0012】

より具体的には、本発明は、以下のようなものを提供する。

【0013】

(1) 筐体と、前記筐体に設けられた前面開口部と、前記前面開口部を閉塞するように設けられた透明状板と、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数の計数表示機と、を備える遊技機であって、前記遊技機内部には前記計数表示機を収めるための筒状容器が透明状板と対向するように配置され、前記複数の計数表示機は、その表示部を透明状板と対向させて前記筒状容器に収められた状態で前記透明状板の背面方向から一枚の裏蓋によって押圧支持されることを特徴とする遊技機。

【0014】

上述した(1)の発明によれば、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える遊技機において「前記遊技機内部には前記計数表示機を収めるための筒状容器が透明状板と対向するように配置され、前記複数の計数表示機は、その表示部を透明状板と対向させて前記筒状容器に収められた状態で前記透明状板の背面方向から一枚の裏蓋によって押圧支持される」ように構成することにより、従来のカウンタのように個々にビスで固定することなく、一括して裏蓋で固定するので、部品点数及び組み付けの手間の削減が可能となる。

【0015】

また、裏蓋をはずすのみで全てのカウンタの取出しができるので、メンテナンスが容易となる。

【0016】

更に、筒状容器にカウンタを収めることで、筐体に対する該カウンタ等の位置決めが可能となり、カウンタ等の固定位置がずれることの防止が可能となる。

【0017】

従来の遊技機においては、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える場合、各々のカウンタについて個別にビスなどを用いて固定していた。そのため、部品点数が増え、組み付けにかかる工程も多くなっていた。

【0018】

そこで、本発明のように構成することにより、複数のカウンタを一括して裏蓋で固定することができるので、部品点数及び組み付けの手間の削減が可能となるのである。

【0019】

(2) 前記裏蓋は、前記複数の計数表示機に対向する面にスポンジ状の緩衝部を備えることを特徴とする(1)記載の遊技機。

【0020】

上述した(2)の発明によれば、(1)の遊技機において「前記裏蓋は、前記複数の計数表示機に対向する面にスポンジ状の緩衝部を備える」ように構成することにより、裏蓋のスポンジ部によって面圧固定することによりカウンタ等の形状に左右されることなく固定ができるので、汎用性を有し、設計の自由度を上げることが可能となる。

【0021】

上述した(1)の発明のように構成し、部品点数等の少なくなった遊技機であっても、遊技機によって使用されるカウンタの形状が異なってしまうと、その都度当該筒状容器などの設計を変更することが必要となり、部品の共通使用が困難いため、コストダウンの効果が充分ではない。

【0022】

そこで、本発明のように構成することにより、裏蓋のスポンジ部によって面圧固定することによりカウンタ等の形状に左右されることなく固定ができるので、汎用性を有し、設計の自由度を上げることが可能となるのである。

【0023】

(3) 前記複数の計数表示機は列状に並んだ状態で前記筒状容器に収められていることを特徴とする(1)又は(2)記載の遊技機。

【0024】

上述した(3)の発明によれば、(1)又は(2)の遊技機において「前記複数の計数表示機は列状に並んだ状態で前記筒状容器に収められている」ように構成することにより、筒状容器を薄型化することで、省スペース化に対応することが可能となる。

【0025】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明における好適な実施形態について図面に基づいて説明する。尚、本実施例は、本発明における遊技機をビデオゲーム機に適用し、遊技に必要な様々な情報を画像として表示させる画像表示装置を用いた実施例について説明する。また、この遊技機1は、紙幣、及び遊技媒体であるコイン、メダル又はトーケンなどを用いて遊技する遊技機であるが、以下においては、紙幣とコインを用いるものとして説明する。

【0026】

【遊技機の構成】

遊技機1の正面図を図1に示す。遊技機1は、筐体2に前面ドアとしての機能を兼用する扉体3が開閉自在に取り付けられている。また、筐体2の上部にトップフレーム4が取り付けられている。トップフレーム4の正面には化粧パネル板41が施されている。

【0027】

遊技情報を表示する画像表示装置21は筐体2内に設置される。画像表示装置21の表示を視認可能とするために、扉体3の上部には開口部20が形成され、画像表示装置21による表示を視認可能とするため、あるいは画像表示装置21

を保護するための透明板が開口部20に取り付けられている。そして、開口部20の両翼には、遊技状態に応じて発生される効果音あるいは効果音楽を聴覚容易とするための透音部902L及び902Rが形成されている。

【0028】

開口部20の下方には、正面方向に突出する形で操作部5が配置されている。操作部5には各種操作ボタンが配列され、当該ボタンの後方やや右寄りにはコインを投入するためのコイン投入口51が備えられている。更に、操作部5の右側には、筐体2内に収納される紙幣識別機（ビルバリデータ）に紙幣を案内するための紙幣案内部52が備えられている。

【0029】

操作部5を形成する台座部の下部には、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタ806（図2参照）を表示するための表示窓800が設けられている。これにより、遊技場管理者は遊技機1の扉体等を開放することなしに、筐体2内に設置されたカウンタ806に示された値を直接読み取ることが可能となるのである。

【0030】

また、この位置にカウンタ806を設置することにより、遊技者には視認し難いながらも、遊技場管理者等が遊技機の扉を開けることなく当該カウンタの数値を読み取ることが可能となるのである。

【0031】

尚、本実施形態においては、カウンタ806は台座部の下方に設けられた表示窓800から視認可能な位置に設置されているが、本発明はこれに限らず、遊技者に対してあまり目立たない部分に設置されればよく、遊技機の扉などを開放したときに始めて視認可能となる位置に設けられていてもよい。

【0032】

操作部5の下方には、扉体3と開閉自在に連結する下部枠体6が設けられている。下部枠体6には化粧パネル板61が内包されている。化粧パネル板61には、当該遊技機の機種などを表す装飾が施されている。なお、画像表示装置21の画面上部に存在するトップフレーム4の化粧パネル板41にも前記装飾が視認容

易に施されている。

【0033】

尚、本実施形態においては、化粧パネル板41及び61には当該遊技機の機種などを表す装飾が施されているよう構成されているが、本発明はこれに限らず、例えば、化粧パネル板41に当該遊技機における遊技方法の説明を表示させたりするなど、遊技者に対して何らかの報知をするもの、単なる模様による装飾などであってもよい。

【0034】

下部枠体6の下方にはコインを収容するためのコイン受け部30が形成されており、遊技の結果などによりコインの払出しが行われた場合には筐体内から排出されたコインがここに貯められるのである。

【0035】

[カウンタ固定部の構成]

操作部5を構成する台座部及び当該台座部内部に設置されているカウンタの斜視分解組立図を図2に示す。

【0036】

当該台座部を形成する台座部枠体50の上部には複数の操作ボタンを備えた操作パネル816が設置されている。この操作パネル816と上述したコイン投入口51及び紙幣挿入口によって操作部5が形成され、遊技者は操作部5により様々な操作を行うことにより、遊技が進行するのである。

【0037】

また、台座部枠体50の内部にはカウンタ806を収納するための横長薄型形状の開口断面を有した筒状容器802が備えられており、後述するカウンタ806の設置位置を固定する。

【0038】

筒状容器802には、遊技機前面方向より順に、カウンタ表示内容表記パネル804、カウンタ806、スポンジ状緩衝部808が収納されている。

【0039】

ここで、カウンタ表示内容表記パネル804とは、カウンタ806の各々が表

示する数値が何を示すかについて表記されたものである。

【0040】

また、カウンタ806は、遊技機1において遊技状況に応じて変化する数値を表示するものであり、具体的には、遊技の行われた回数、遊技機に投入されたコインや紙幣の枚数、払い出されたコインの枚数、大当たりの発生した回数等の積算値であり、図2においては、複数のカウンタを並列した状態で描かれている。

【0041】

また、スポンジ状緩衝部808は筒状容器802内におけるスペーサーの役割を果たすものである。

【0042】

更に、筒状容器802の背後からは、面圧固定板810が押し当てられ、ビス812によって筒状容器802に固定されている。

【0043】

一方、筒状容器802の前面開口は、上述した表示窓800と接しており、表示窓800には透明板814が嵌合されている。

【0044】

以上のように構成されることより、カウンタ表示内容表記パネル804及びカウンタ806は、背後からスポンジ状緩衝部808を介して、面圧固定板810によって前面方向の透明板814に押し当てられることで、固定されるのである。従来の遊技機においては、複数のカウンタが各々別個にビスなどを用いて筐体に固定されており、そのため部品点数が多くなり、また、組み付けの手間のかかるものであったが、本発明のように構成することで、部品点数の削減及び組み付け作業量の低減が可能となるのである。更に、各カウンタは後方からスポンジ状緩衝部808によって面圧固定されるので、カウンタのサイズやハーネスの設置箇所の異なるものを使用する場合であっても、その都度面圧固定板810の形状を設計し直すことなく、同一のもので固定することが可能となり、部材の汎用性を増すことが可能となるのである。

【0045】

また、カウンタ表示内容表記パネル804についても、透明板814とカウン

タ806との間に挟み込まれることのみで固定されるので、固定のために特別な部品が不要となるのである。

【0046】

更に、複数のカウンタ806は、図2に示すように列状に配列している。このように配列することにより、筒状容器を薄型化することで、省スペース化に対応することが可能となる。そして、図1に示すような、台座部の下部などの遊技者から目立たない部分などに設置することが可能となるのである。

【0047】

[カウンタの機能]

カウンタ806は、筐体内部に備えられた制御基板と電気的に接続しており、当該制御基板からの命令により、各カウンタに表示された数値を1ずつ加算していくのである。

【0048】

具体的には、例えば、カウンタ806にコインの投入総数を表示させる場合には、当該制御基板と電気的に接続したコインセンサが、コイン投入口51へのコインの投入を感知した際にコインの投入があった旨を示す信号を当該制御基板に送り、当該信号を受け取った当該制御基板は、カウンタ806のうちのコイン投入総数を表示するものに対して、表示する数値に1を加算する旨の信号を送るのである。これにより、カウンタ806はコインの投入総数を正確に表示することができるのである。

【0049】

また、当該制御基板には、コインを払出しするためのホッパーも電気的に接続しており、当該ホッパーが駆動した旨の信号を当該制御基板が受け取った際には、カウンタ806のうちのコイン払い総数を表示するものに対して、表示する数値に1を加算する旨の信号を送り、これによりカウンタ806はコインの払い出し総数を正確に表示することができるのである。

【0050】

また、当該制御基板は、遊技機1における遊技内容を制御するものであるので、遊技が1回行われるごとに、遊技が行われたことを示す信号をカウンタ806

のうちの遊技回数を表示するものに対して、表示する数値に1を加算する旨の信号を送り、これによりカウンタ806は遊技回数の総数を正確に表示することができる。である。

【0051】

尚、本実施形態においてカウンタ806に表示させている表示内容は、コインの投入総数、コインの払出し総数、遊技回数の総数の3つであるが、本発明はこれに限らず、遊技状況に応じて変化する数値であれば、いかなるものを表示させてもよい。

【0052】

以上のように構成することにより、遊技状況に応じて変化する数値を表示させるためのカウンタを、従来のカウンタのように個々にビスで固定することなく、また、そのカウンタの形状や個数を限定することなく、一括して裏蓋で固定するので、部品点数及び組み付けの手間の削減が可能となり、裏蓋をはずすのみで全てのカウンタの取出しができるので、メンテナンスが容易となるのである。更に、筒状容器にカウンタを収めることで、筐体に対する該カウンタ等の位置決めが可能となり、カウンタ等の固定位置がずれることの防止が可能となるのである。

【0053】

また、本明細書に記載された効果は、本発明から生じる最も好適な効果を列挙したに過ぎず、本発明による効果は、本明細書に記載されたものに限定されるものではない。

【0054】

【発明の効果】

本発明によれば、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える遊技機において「前記遊技機内部には前記計数表示機を収めるための筒状容器が透明状板と対向するように配置され、前記複数の計数表示機は、その表示部を透明状板と対向させて前記筒状容器に収められた状態で前記透明状板の背面方向から一枚の裏蓋によって押圧支持される」ように構成することにより、従来のカウンタのように個々にビスで固定することなく、一括して裏蓋で固定するので、部品点数及び組み付けの手間の削減が可能となる。また、裏

蓋をはずすのみで全てのカウンタの取出しができるので、メンテナンスが容易となる。更に、筒状容器にカウンタを収めることで、筐体に対する該カウンタ等の位置決めが可能となり、カウンタ等の固定位置がずれることの防止が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明における遊技機1の正面図である。

【図2】 本発明における台座部及びカウンタの斜視分解組立図である。

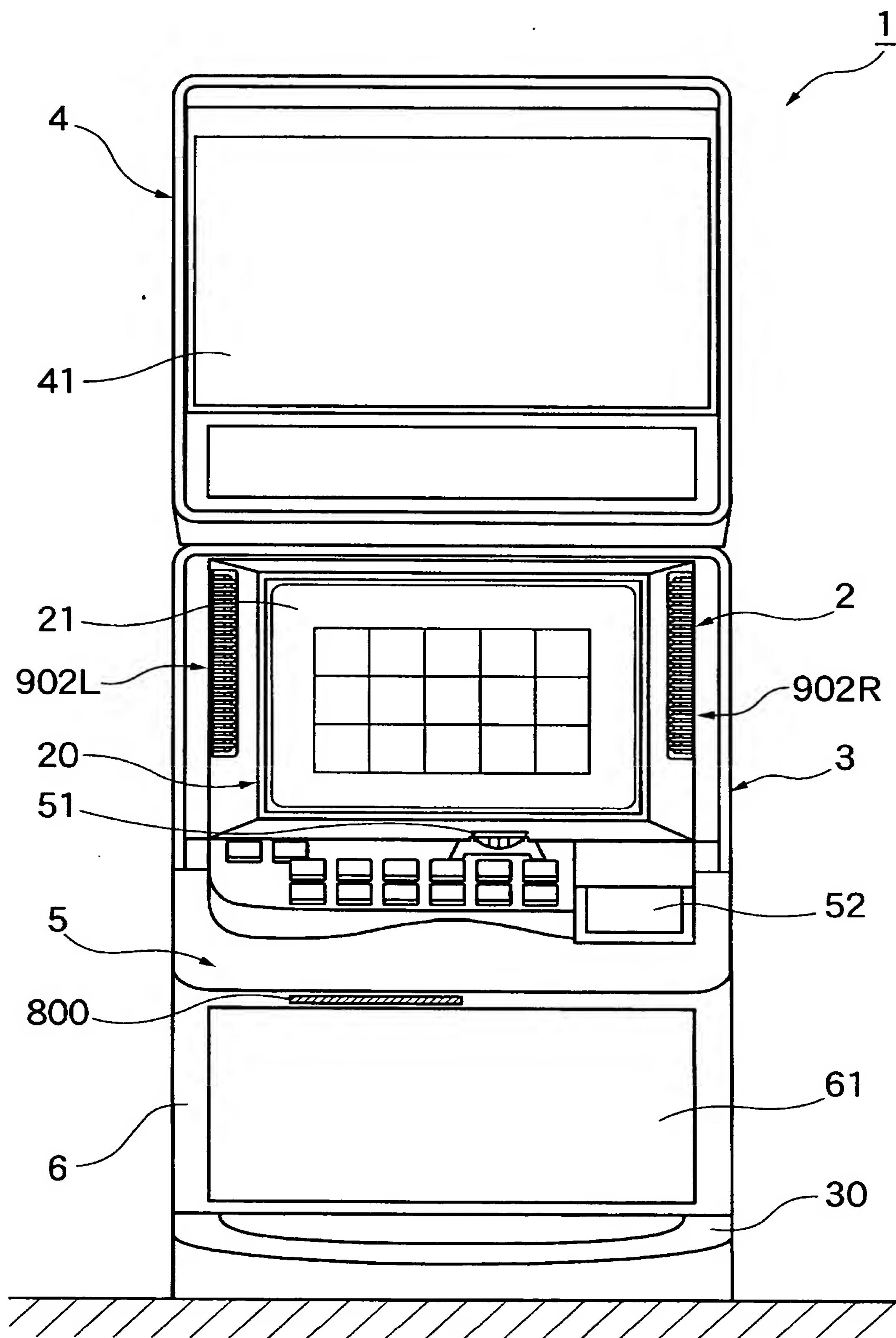
【符号の説明】

- 1 遊技機
- 2 筐体
- 5 操作部
- 21 画像表示装置
- 50 台座部枠体
- 800 表示窓
- 802 筒状容器
- 804 カウンタ表示内容表記パネル
- 806 カウンタ
- 808 スポンジ状緩衝部
- 810 面圧固定板
- 812 ビス
- 814 透明板
- 816 操作パネル

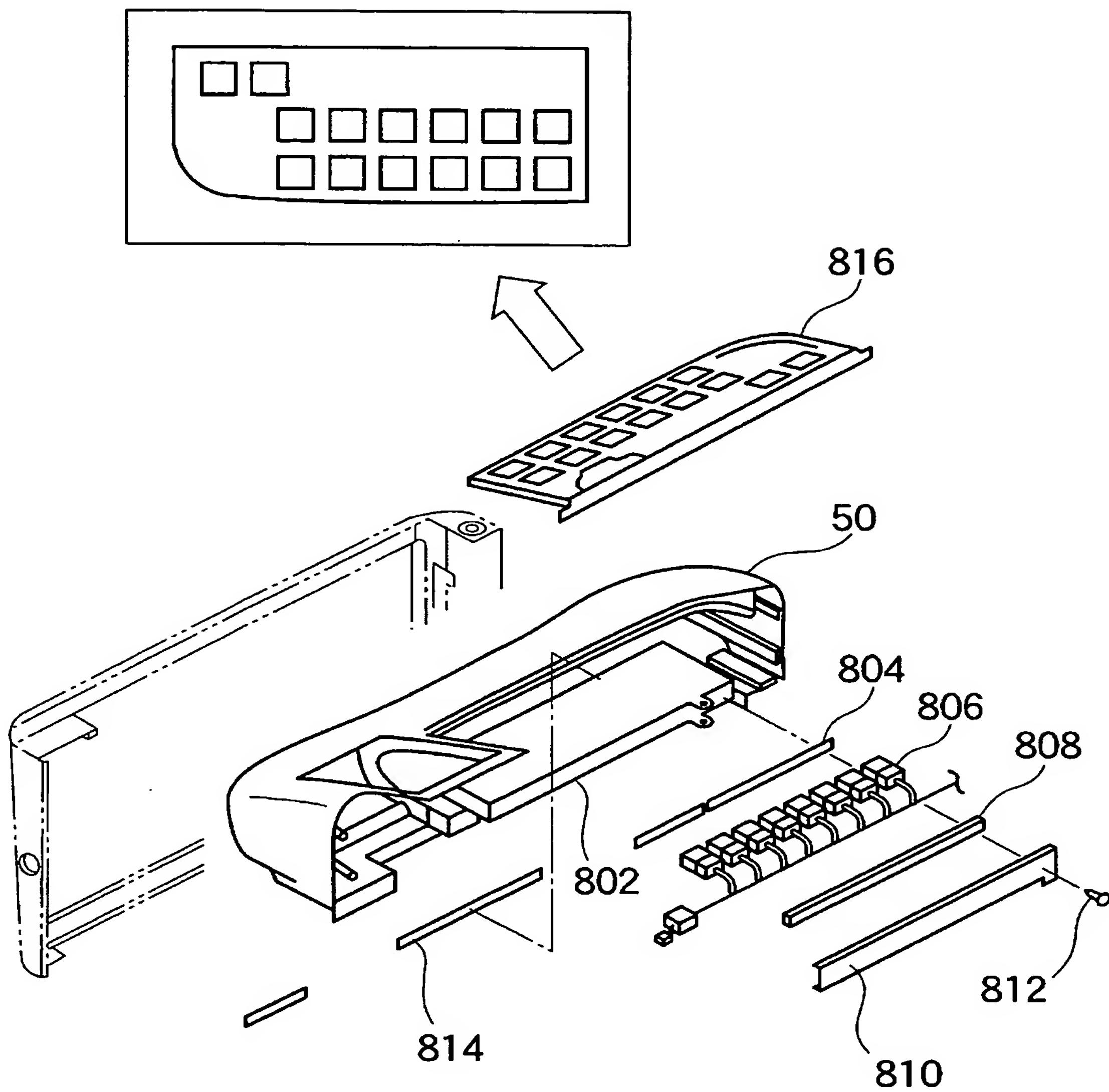
【書類名】

図面

【図 1】



【図2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタを備える遊技機において、当該カウンタが簡単な構造で取り付けられる遊技機を提供する。

【解決手段】 遊技機1において、遊技状況に応じて変化する数値を表示する表示部を有する複数のカウンタ806は、各々個別に固定されることなく、筒状容器802に収容され、後方から面圧固定板810を押し当てることによって固定されることで、カウンタ806はビスなどを用いることなく固定されることが可能となる。

【選択図】 図2

特願 2002-316727

出願人履歴情報

識別番号 [598098526]

1. 変更年月日 1998年 7月23日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都江東区有明3丁目1番地25

氏 名 アルゼ株式会社